



■ 第8回 日本きもの学会 年次大会 ■

1. テーマ 「前へ、さらに前へ」
2. 開催 平成28年3月26日(土) 14:00~16:45 (受付開始13:30~)
3. 場所 京染会館6階 (京都市中京区四条通西洞院西北角)

【プログラム】

- | | |
|-------------|--|
| 14:00~14:05 | 開会挨拶 |
| 14:05~15:35 | 特別講演「正倉院染織文様の世界」
尾形充彦先生 (正倉院染織研究家)
座長 富山弘基 |
| 15:45~16:40 | 一般演題発表
座長 植村和代 |
| 16:40~16:45 | 閉会挨拶 |

1 きもの健康学～日本人女性の体格変化について

(15:45～16:00 発表 10分 質疑応答 5分)

高橋裕子 (奈良女子大学 教授)

東山明子 (畿央大学 教授)

日本人女性の体格は過去50年で大きく変化したと言われる。しかしながらきものの尺は従来どおりで作成されているのが現状である。本発表では日本人女性の体格変化とくに丈と衿に関連する変化を取り上げ、尺の変更の必要性について論じる。

2 和裁裁縫書と婦人雑誌『婦人画報』に見られる和服改良

(16:00～16:15 発表 10分 質疑応答 5分)

小林政子 (四天王寺大学)

和服は扱いに手間を要することから和服改良の可能性を探る。和裁裁縫書と雑誌『婦人画報』の中の改良案に注目する。裁縫書にはまず新素材の導入があり、大正期に名古屋帯が定着し、昭和期に和洋折衷の衣服が生まれた。『婦人画報』では国防服の考案等、社会情勢を反映していた。現在ではスカート式の下着、名古屋帯、甚平等が一般に定着し、着装が簡略化されながらも和服としての装飾性を残す物がより定着する傾向が見られた。のゼミのひとつとなり、平成23年には本授業の受講が学習全般の意欲向上につながるなど成果を示した。今回は授業構成および成果と、定着にむけての今後の展望について紹介する。

3 第21次西陣機業調査の概要について

(16:15～16:40 発表 10分 質疑応答 5分)

柿野欽吾 (京都産業大学 理事長)

大西辰彦 (京都産業大学 副学長)

平成28年度に行われた第21次西陣機業調査の概要について報告する。

西陣機業調査は、昭和30(1955)年以降3年に1度実施される西陣機業の全数調査で、今回は21回目に当たる。調査対象期間は平成26(2014)年1月から12月の1年間であり、385社(回収321社)へのアンケート調査の結果をもとにまとめたものである。